

校訓 正しく 明るく 健やかに

令和5年10月13日

知好楽



今年の体育祭のスローガンは「一念通天」、9月29日、天高く澄みきった青空に、品中生の一念が届きました。思いっきり楽しみました。最高の仲間とともに、最高の笑顔で、最高のパフォーマンスを見せてくれました。地域の皆様から、「この行事は絶対に続けていかなければいけませんね」、また、「あの団長さんたち、是非、地域のリーダーになってほしいですね」等、お言葉をいただきました。参観いただいた地域・保護者の皆様、ありがとうございました。

「楽しみたいと思います」というアスリートの言葉を最近よく耳にする。はじめのころ、「楽しみたい」という言葉がなかなかしっくりこなかった。考えてみると、「巨人の星」「アタックNo.1」「赤き血のイレブン」・・・いわゆる熱血もののアニメを見て育った世代の私には（私だけかもしれないが）、大切な大舞台を「楽しむ」というのは、ちょっと違うような感じをもっていた。ただ、球史に残るプロ野球界の大スター長嶋茂雄さんは、緊張を楽しむことができるのだと聞いたことがある。先日、ある読みものの中に「知好楽（ちこうらく）」という言葉が目にとまった。この言葉は、孔子の論語の一説で、『これを知る者は、これを好む者に如かず、これを好む者は、これを楽しむ者に如かず』という、要するに、ある事に対して、「ただ知っているだけの人は、それを好き好んでやっている人にはかなわない。さらに好き好んでやっている人は楽しんでやっている人にはかなわない」ということ。「知る」とは、単なる知識の獲得を意味するのに対し、「好む」とは、積極的な意志がはたらく段階。自ら学ぶ意志がはたらくのが「好む」であるのに対し、「そうせずにはいられない」という感情がはたらくのが「楽しむ」という段階。今までにどれほどあったらうか。何かに懸命になったとき、「よく知っている」を超えて「好きだ」というまでのレベル、そして、「好き」を超えて「楽しむ」まで到達したレベル。勉強も習い事も仕事も、楽しむことができる域にまで達したいものである。そして、それはきっと、最高のパフォーマンスに。